

名東高校とのビブリオバトル交流会報告

Report: Bibliobattle event with students at Meito High School

伊藤 真理*

Mari ITOH

今年度、当学部での初めてのイベントとして、名古屋市立名東高校（以下、名東高校）とのビブリオバトル交流会が実施された。きっかけは名東高校図書館部担当教員から図書館情報学専修への提案による。本稿では、その経緯と成果を報告する。

名東高校では、図書委員の生徒を中心としてすでに数回ビブリオバトルを開催している。一昨年まで菊里高校と合同で実施、その後中学生とも実施した経験がある。これらの開催を通じ、担当教師間では、名東高校生が発表後の質問が期待しているようにできない、そのため他校生徒との交流に盛り上がり欠ける等を、当該校の課題として認識されていた。例えば、同年齢である他校との交流では、心理的な影響もあり、やりづらい点があるように感じられる。そこで、大学生の“胸を借り”て実施することにより、高校生たちがコミュニケーションしやすい雰囲気が作れないかと検討し、司書課程を開講し、高校とも距離が近いというメリットもあることから、図書館部活動としても適切であると考え、愛知淑徳大学に打診することにした、というのが提案内容であった。さらに、高校生達は大学生と交流ができるかもしれないことを大変期待している、とのお話であった。ちなみに、ビブリオバトルとは、2010年に発案された“本の紹介コミュニケーションゲーム”（知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト、<http://www.bibliobattle.jp/home>）のことである。発表者は、5分間で本の魅力を紹介し、その後質疑応答を通して他の参加者の考えを共有して、最後に一番読みたいと思った本を多数決で決定する。

当専修では河村、伊藤が担当となり、当提案を専修で諮った後、学科会議で提案して実施することとした。当方の事前準備としては、学内で全学年に呼びかけ、事前説明会と学内でのビブリオバトル練習日を設けた。残念ながら、当交流会が本学学園祭の1週間前であったため、学生参加者が少なかったが、当学部以外に創造表現学部学生の参加もあり、無事に開催の運びとなった。

高校の行事等と調整の結果、下記の通り実施した。

日時・会場 10月20日16時半～・本学ミニシアター

発表者 名東高校生3名、本学学生2名

紹介本 寺山修司著『不良少女入門』、橋本治著『ちゃんと話すための敬語の本』、森見登美彦著『新釈走れメロス』、山本弘著『翼を持つ少女』、阿川大樹著『終電の神様』

当日の発表者

当日は高校生が30名以上、引率教員4名が参加し、大変賑やかな会となった。本学学生も授業終了後に駆けつけて積極的な協力があり、大変喜ばしかった。司会進行はすべて名東高校生が担当し、円滑な会の運営がなされた。参加者は皆熱心に発表を聞き、高校生と大学生がバランス良く質問をすることができた。発表で使用されたタイトルは上述の通りで、マンガ以外であればテーマは自由という設定であったが、小説、新書、翻案など多方面にわたって楽しむことができたと思われる。実施後の感想はすべて大変好評で、今後も継続していくことが期待される。

* 愛知淑徳大学人間情報学部